

通例否定文で使われる動詞表現の意味について

宮 脇 正 孝

1. はじめに

英語の動詞が、ある特定の意味の場合、主として否定文や疑問文で使われることがある。たとえば、「～に耐える」という意味での *bear* などである。この意味の *bear* を含む文として、*I couldn't bear his rude behavior* (彼の無礼な振る舞いには我慢できなかった) は普通であるが、*?I bore his rude behavior* (彼の無礼な振る舞いに我慢した) は普通ではないということになる。

このような動詞については、たいてい英和辞典には、「通例否定文・疑問文で」などの用法上の注記がある。多くの場合、否定文と疑問文とが対になっているのは、共に肯定文ではないという特性を持つからである。ときに、条件文が加わることもあるが、それも同じく通常の肯定文とは異なるからである。言い換えると、文形式として、一方、肯定文が無標である(unmarked)のに対して、他方、否定文・疑問文・条件文は有標である(marked)ということである。

筆者は以前から、どのような語句に辞書でこのような注記が付されているのか、網羅的に知りたいものだと思っていた。とりわけ筆者の関心は、通例否定文で使われる動詞および動詞的表現にある。¹ 厳密には、ある動詞が常に否定文で使われる事例は少なく、*bear* の場合のように、ある特定の意味で用いられるときに否定文で使われることが多いというのが事実である。した

¹ 本稿では、一方「動詞」とは、*bear* のような単独で動詞的に使われる語のことを指し、他方「動詞的表現」とは、2 語以上のまとまりで動詞的に使われる語句（いわゆる熟語）のことを指す。タイトルでは、「動詞および動詞的表現」では長くなるので、両者をまとめて「動詞表現」とした。以下の本文でも、この言い方を使うことがある。

がって、問題は、通例否定文で使われるとされるような動詞および動詞的表現の意味にはどのようなものがあるか、ということになる。果たして、「通例否定文で」という用法指示がある動詞および動詞的表現の意味は、それぞれ関連なく個々別々のものなのか、あるいは、ある程度のまとまりを成すくらいの関連性を示すものなのか、それを知りたいのである。

2. 資料の採集

この問題を検討するために、『ウィズダム英和辞典』第2版（井上永幸・赤野一郎編，三省堂，2007年）で「通例否定文で」などの注記が付されている動詞および動詞的表現を網羅的に採集した。もちろん、OEDのような大規模な辞書を使うことも考えられる。今はCD-ROM版があり、検索が簡単にできるので、辞書の規模の割には資料収集に時間がかからないであろう。が、OEDでいくつかの語について調べてみると、「通例否定文で」に当たる英語の表現が一定しておらず、網羅的に資料を集めるのが難しいことがわかった。また、筆者の興味は、あくまで現代英語で普通に使われる動詞表現の意味にあるので、OEDから廃語や普通使われない語句の意味を集めても仕方がないのである。

したがって、学習辞典規模がちょうどよいことになる。むしろ、学習辞典にもさまざまあるわけだが、筆者は数年前から『ウィズダム英和辞典』（以下W辞典と略記）を常用して、その優秀さを実感し、学生にも勧めてきた。そういう個人的な愛着もさることながら、この辞書は、三省堂が独自に開発したコーパス資料に基づいて作られており、その点でも、現代英語の実態を反映した注記がなされていることが期待できる。そこで今回筆者は、この辞書が提供してくれる用法指示や語法に関する情報に依拠することにした。

採集の対象とした語句の選択基準を述べる。すでに書いたように、筆者の興味は、通例否定文で使われる動詞および動詞的表現の意味にある。したがって、たとえば、

scrap 図 1 b □【通例否定文で】（証拠・真実などの）かけら，ほんのわずかなような名詞や，

at all (1)【否定文で】少しも（…でない），全然（…でない）

のような副詞的表現は，「（通例）否定文で」などの注記があっても，ここでは取り上げない。

W 辞典における「通例否定文で」などの注記の仕方にもいくつかのバリエーションがある。まず，

contain

2（書）【通例否定文で】〈人が〉〈興奮・怒りなどの感情〉を抑える，【～oneself】自制する

のように，語義の前に用法指示がなされている場合と，

go into A

(5) A〈事〉をくわしく説明する[論ずる]，A〈詳細〉に立ち入る（□通例否定文で）

のように，語義の後に文法・語法に関する情報が示されている場合との，大きく2通りに分けられる。前者は，「通例否定文で使われて次の意味になる」ということであり，後者は，「この意味では通例否定文で使われる」ということである。前者は用法指示であり，後者は文法・語法に関する情報なので，前者の方が否定文という文形式への限定性が強いように思われる。が，本稿では，共に「通例否定文で」という注記として，区別せずに扱うことにする。語義の前の用法指示としては，「通例否定文で」の他に，「否定文で」，「通

例否定文・疑問文で」, 「主に否定文・疑問文で」, 「しばしば否定文・疑問文で」などがある。また, 「通例 can, could を伴って否定文・疑問文で」のように, 特定の助動詞との共起にまで言及している場合もある。

語義の後の文法・語法情報としては, 「通例否定文で」の他に, 「否定文で」, 「通例否定の文脈で」, 「しばしば否定文で」, 「疑問文・否定文・条件節で」などがある。² いずれについても, 「否定」という語句が含まれていれば, それ以上の細かい分類はせずに, 同等に取り上げることにする。

基本的に, W 辞典においてこのような注記がある動詞および動詞的表現をすべて採集した。ただし, たとえば,

dispute

1 〈人が〉〈事実・陳述・理論など〉に反論する, 異を唱える; 『dispute that 節』…ということに異を唱える (□that 節は通例否定文で用いられる)

における語義の後の注記のようなものは, **dispute that 節**という統語的環境に限定されたものであり, とくに「異を唱える」という意味と関連するものではないので, ここでは取り上げない。

W 辞典で成句および句動詞として挙げられているものは, 独立した項目として扱った。たとえば, **stand** と **stand for** とは別の語彙項目として数えている。³ こうして採集した動詞および動詞的表現は 154 になった。ただし, **fancy** の場合のみ, 「～がほしい」と「～が勝つと思う」という明らかに異なる語義のそれぞれに「しばしば否定文で」という注記がある。本稿の目的は, 通例否定文で使われる動詞表現の意味の傾向を明らかにすることにあるので, **fancy** のみは **fancy (1)**, **fancy (2)**として, 別項目として扱うことにした。その

² 大まかな目安として, 「通例」・「主に」・「普通」は 80%を, 「しばしば」は 60%を表すとのことである (W 辞典, p. ix)。

³ **stand for** のような句動詞や **hold water** のような成句を「語彙項目」と呼ぶのは, この用語の普通の用法ではないかもしれない。が, 本稿では, 動詞と動詞的表現とを区別なく数えるために, この使い方をする。

結果、ここで検討の対象とする語彙項目は 155 ということになる。W 辞典全体の収録語彙数(約 9 万項目)から考えれば、さほど多くはないと言えよう。

これら 155 語彙項目の意味を、「考える」、「思う」、「想像する」など類縁的なものと同じカテゴリーにまとめて、分類することを試みた。意味の分類には常に主観的要素が入るものであり、ある意味と別の意味との境界線は曖昧な場合が多い。が、ともかくも、筆者は、155 語彙項目を 44 の意味範疇に分類した。むろん、一方では、1 つの語彙項目で 1 つの意味範疇を立てなければならない場合もあるが、他方では、10 以上の語彙項目を括る意味範疇を立てることもできた。

3. 資料の提示

以下に、それらの意味範疇を、そこに含まれる語彙項目の多い順に提示する。通例否定文で使われるという文形式上の特性と意味との関連が本稿のテーマなので、とくに多くの語彙項目を含む意味範疇については、語彙項目のみならず、その語義・用例・注記その他の情報をも記載することにする。絶対的な基準があるわけではないが、ここでは 7 つ以上の語彙項目を含めば、メンバーの多い意味範疇であると見なして、これらの情報を挙げる。語彙項目が 6 つ以下の意味範疇については、当該の範疇に分類した動詞表現を英語で挙げておくのみにし、その語義・用例・注記等は記さない。

詳細を示す語彙項目については、W 辞典から次のものを挙げる。

- ・自動詞(自)と他動詞(他)の区別。成句と句動詞は共に熟語(熟)と表記。
- ・「通例否定文で」などの注記。語義の前の場合と、語義の後の場合とがある。⁴
- ・語義。2 つ以上の訳語がある場合にも、ここでは 2 つまでの引用に控

⁴ たとえば、enter (他)⁹ の語義の後には、「しばしば否定文で」の他に、「しばしば起こった事態に対する驚きを含意」という注記もあるが、本稿では後者のようなものまでは引用しない。

える。基本的に最初の2つとしたが、ときに、意味範疇をよく表すものを3つ目以降から選んだ場合もある。

- ・文型および連語。とくに否定文で使われるときの文型および連語表示がある場合には、それを載せる。
- ・使用域。《英》、《くだけて》などの使用域がある場合には、それを載せる。
- ・用例。W辞典に挙げられている用例のうち、最初の否定文例（ときに句例）を引用し、当該の語彙項目と否定語とを斜字体で示す。⁵ ときに、「通例否定文で」などの注記があるにもかかわらず、用例は肯定文や疑問文のみで、否定文がない場合がある。また、そもそも語義のみで、用例がまったくない場合もある。いずれの場合にも、以下では「否定文の用例なし」と記しておく。⁶

意味範疇には通し番号を振り、それぞれの意味範疇内での語彙項目の配列は、アルファベット順とする。熟語の場合は、W辞典で扱われている箇所の見出し語を基準にする。⁷

1 一致する、匹敵する（22 語彙項目）

ここには、「一致する、匹敵する」という意味で括ることのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。「一致する」の類縁的意味としては、「（～に）合う」、「（～に）適している」、「（話などが）つじつまが合う」、「（規範などに）かなっている」、「（～に）賛同する」などがある。また、「匹敵する」の類縁的意味としては、「（～が…と）比較の対象になる」、

⁵ 複数の否定文例がある場合も多々あるが、引用は最初に掲載されている例のみにとどめておく。

⁶ むろん、辞典にはこれ以上の情報も多く含まれている。が、すべてをそのまま引用するわけにはいかないので、否定文での使用にとくに関連の深い以上の項目にとどめておく。

⁷ たとえば、see eye to eye の場合は、eye を基準にする。1つ例外があるが、それには当該箇所の注で触れる。

「(期待などに) 応える」, 「(標準などに) 達する」などがある。

accord

(自) 《…と》一致する, 合う «with» (☐しばしば否定文で)

His ideas do *not accord with* my belief. 彼の考えは私の信念と一致しない

add up

(熟) (2)《くだけで》『通例否定文で』〈話・説明などが〉つじつまが合わない, 筋が通らない [否定文の用例なし]

agree

(自) 5『agree with A』a《くだけで》『否定文で』〈食物が〉A〈人〉の胃に悪い⁸

I have an upset stomach. The eggs did *not agree with* me. 胃の調子が悪い。きつと卵があたったんだ

compare

(自) 2『否定文で ; ~ with A/to A』〈物・状況などが〉A〈ほかの物・状況など〉とは比べものにならない, 比べられない

The amount of snowfall in Tokyo *doesn't compare with* [to] that in Sapporo. 東京の降雪量は札幌とは比べものにならない

compete

(自) 3『通例否定文で』《…に》匹敵する, 《…と》勝負になる «with»

We *cannot compete with* foreign companies financially. 外国の企業には資金面で太刀打ちできない

⁸ 食べ物が人の胃に「合わない」ということであるから, この項に入れておく。

do

(自) 6【通例否定文で】〈事・行為などが〉適切ではない, 規則[礼儀など]にかなっていない

That will *never do!* そんなことは決してよくない

see eye to eye

(熟)《人と/…について》意見が一致する, 同意見である «*with/on, over, about*»
(☐しばしば否定文で) [否定文の用例なし]

hang together

(熟) (1)〈計画・考え・話などが〉つじつまが合う, よくまとまっている (☐しばしば否定文で) [否定文の用例なし]

hold with A

(熟)【否定文・疑問文で】A〈行動など〉と一致する, A に賛成する [否定文の用例なし]

like

(他) 7【否定文で】〈食物などが〉〈人〉に合う[適している] [否定文の用例なし]

look oneself

(熟)《話》【通例否定文で】(ふだんとは違って)体調[具合]が悪そうである⁹

What's wrong? You *don't look yourself* today. どうしたの. 今日は元気がないみたいよ

⁹ 「本来の自分らしく見えない」→「本来の自分と一致していない」と解することができるので, この項に入れておく。

match up

(熟) (3) 【通例否定文で】《期待・希望・理想などに》十分こたえる «to»

The movie *didn't match up to* my expectations. その映画は期待したほどではなかった

measure up

(熟) (2) 基準に達している, 《期待・標準などに》匹敵する «to» (☐しばしば否定文で)

The new player *didn't measure up*. あの新人は水準に達していなかった

mix

(自) 3 【否定文で】〈2つ以上の物・考え・行動などが〉交じり合わない, 両立しない

Music and politics *don't mix*. 音楽と政治は合わない

scan

(自) (詩が) 規則正しい韻律を持つ¹⁰ (☐しばしば否定文で) [否定文の用例なし]

sit

(自) 8 〈食物などが〉《人の》苦になる, 負担になる «on»¹¹ (☐通例, 否定(的)表現で) [否定文の用例なし]

sit well with A

(熟) 【通例否定文で】〈状況・計画などが〉A〈人〉の気に入らない, Aにじっくりこない [否定文の用例なし]

¹⁰ 詩が韻律の規則に「合っている」ということであるから, この項に入れておく。

¹¹ 食べ物などが人に「合わない」ということであるから, この項に入れておく。

stack up

(熟) (3) 【通例否定文で】 つじつまが合う, もっともらしい [否定文の用例なし]

subscribe

(自) 3 《かたく》《意見・信念などに[を]》賛同する, 支持する «to» (☐しばしば疑問文・否定文で)

He doesn't subscribe to the doctrine [theory, view, rule] that ... 彼は…という信条 [理論, 見方, 規範]に賛同しない

suit

(他) 3 《主に英》【通例否定文で】〈事が〉〈人・物〉に適している, 合う
Marriage didn't suit me. 結婚は私には合わなかった

touch

(他) 13 【通例否定文で】〈人が〉《…の点で》〈ほかの人〉にかなわない «in, for»

Nobody could touch me in swimming. 泳ぎでは私にかなう者はいないであろう

hold water

(熟) (1) 《くだけで》〈理論・理屈が〉筋が通っている, うまく行く (☐通例否定文で) [否定文の用例なし]

2 我慢する, 耐える (17 語彙項目)

ここには, 「我慢する, 耐える」という意味で括ることのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。類縁的意味としては, 「(侮辱などを) 甘んじて受ける」, 「(感情などを) 抑える」などがある。

abide

(他) 1 【通例 can, could を伴って否定文・疑問文で】《(くだけて)》…を我慢する, …に耐える

I *can't abide* his rudeness. 彼の無作法には耐えられない

bear

(他) 1 【can, could と共に否定文脈・疑問文で】

a 〈人が〉…に耐える, …を我慢する

He *couldn't bear* the thought of retiring. 彼は引退[退職]を思うと耐えられなかった

2 【not bear A/doing】〈物・事が〉A〈検査・比較など〉に[…されるのに]耐えられない, 値しない

His latest novel does *not bear* comparison with his earlier ones. 彼の小説の最新作は旧作の数々に及ばない

bear repeating¹²

(熟)《主に英》〈発言が〉繰り返すに足る(□通例否定の文脈で) [否定文の用例なし]

contain

(他) 2 《書》【通例否定文で】〈人が〉〈興奮・怒りなどの感情〉を抑える, 【~oneself】自制する

We could *barely contain* our excitement. 私たちはやっとの思いで興奮を抑えた

¹² この成句は W 辞典では見出し語 repeat の下に配置されているが、「～に耐える」の意味での bear の例にふさわしいものなので、ここに挙げておく。

do with A

(熟) (5) 【通例否定文で】 A を [に] 我慢する

I can't do with her. 彼女には我慢できない

face

(他) 3 【否定文で】 (難しくて・不快で) …できそうもない, …に耐えられない

I can't face the possibility of Mother's death. 母が死ぬかもしれないなんて耐えられない

help oneself

(熟) (4) 【can を伴い否定文で】 自分(の感情など)を抑える

I shouldn't have eaten so much but I couldn't help myself. そんなに大食いしなければよかったが我慢できなかった

lie down

(熟) (2) 《くだけて》 【通例否定文で】 《侮辱・無礼などを》甘んじて受ける «under» [否定文の用例なし]

take A lying down

(熟) 《くだけて》 A (批判・侮辱など) をだまして受け入れる, 甘受する (⊕しばしば否定文で) [否定文の用例なし]

resist

(他) 1 【通例否定文で】 〈人が〉 〈好きな物・事〉 を我慢する, こらえる

I couldn't resist buying the DVD. 僕はその DVD を買わずにはいられなかった

(自) 1 〈人が〉 (好きな物・事を) 我慢する, 控える (⊕しばしば否定文で)

When he asked me out for a drink, I couldn't resist. 彼に飲みに誘われた時, 私

は断れなかった

stand

(他) 2 【can stand A/doing/to do】A (人・物事) […すること] を我慢できる, 辛抱できる (□通例否定文・疑問文で)

I can't stand my neighbor [the heat, the taste of whiskey]. ご近所の人[暑さ, ウイスキーの風味]が僕には我慢ならない

stand for A

(熟) (3)《話》【通例否定文・疑問文で】A を我慢する

I won't stand for her lies any more. もう彼女のうそには耐えられないわ

stick

(他) 5 《英話・ぞんざいに》【通例否定文で】〈困難な状況・不快な人など〉に耐えられない, …を我慢できない

I couldn't stick it any longer. 私にはもう我慢ならなかった

stomach

(他) 【通例疑問文・否定文で】1 〈不快な物・事〉を受け入れる, 我慢する [否定文の用例なし]

suffer

(他) 3 《文》【主に否定文・疑問文で】…を我慢[黙認]する, 忍ぶ [否定文の用例なし]

support

(他) 9 《かたく》【通例否定文で】…に耐える

We can't support extreme temperature changes. 極端な寒暖の差には耐えられない

take

(他) 15 (《くだけて》) 〈状況・批判・態度など〉に耐える, …を我慢する (□
通例否定の文脈で)

I *can't take* it any more [longer]. もう我慢できない

3 理解する, 気づく (15 語彙項目)

ここでは, 「理解する, 気づく」という意味で括ることのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。「理解する」の類縁的意味としては, 「わかる」, 「正確な数や額を言う」などがある。また, 「気づく」の類縁的意味としては, 「認める, 認識する」, 「印象に残る」などがある。

catch

(他) 20 (《話》) 【通例否定文・疑問文で】 〈人が〉 〈言葉など〉を聞きとる, 理解する

Sorry, I *didn't* (quite) *catch* your name [the last part]. すみません, お名前[最後の部分]が(よく)聞き取れなかったのですが

comprehend

(他) 1 【しばしば否定文(に準ずる文)で】 〈事・物・人(の本質)〉を(しっかりと)理解する, 【~wh 節/that 節】…か[…ということ]を理解する

I *couldn't* fully *comprehend* what he was trying to say [the seriousness of the situation]. 彼が何を言おうとしていたのか[状況の深刻さ]が十分には理解できなかった

fathom

(他) 1 〈なぞ・不可解な事など〉を(よく考えて)理解する, 測り知る (□しばしば不可能・困難を表す否定文脈で) [否定文の用例なし]

put a figure on A

(熟) A の正確な金額[数]を言う (□しばしば否定文で) [否定文の用例なし]

follow

(自) 6 【通例否定文・疑問文で】理解する

Sorry, I *don't* quite *follow*. すみませんが、よくわかりません

get through to A

(熟) (1) 【しばしば否定文で】(困難だが)〈事が〉〈人〉に何とか理解される [否定文の用例なし]

get one's head around [《英》round] A

(熟) 《くだけて》【通例否定文で】A〈難しい事柄〉を理解する [否定文の用例なし]

make heads or tails [《主に英》head or tail] (out) of A

(熟) 【can, be able toなどを伴って通例否定文・疑問文で】A〈物・事〉を理解する

I *couldn't* make heads or [nor] tails of his story. 彼の話はさっぱりわからなかった

make A of B

(熟) (1) 【通例否定文・疑問文で】〈人が〉B〈事・物・人〉についてAだと理解する, 思う

I *couldn't* make anything [could make nothing] of what he said. 私には彼の言うことが理解できなかった

make A out [out A]

(熟) (4)《くだけて》【通例 can を伴い否定文・疑問文で】A〈人(の考え・性格など)〉を理解する, 【~ out wh 節・句】…ということを理解する

I *can't make him out at all*. 私には彼のことがさっぱりわからない

get one's mind round A¹³

(熟)《英話》A〈考え・状況など)を理解する(□否定文で) [否定文の用例なし]

register

(他) 4【通例否定文で】〈物・事)に気づかない, …を認識しない

They *didn't register my presence*. 彼らは私がいることに気づかなかった

(自) 2【通例否定文で】〈事・物が)《人に》印象に残らない, 心に留まらない《with》

The first time I saw the film, it *didn't register at all*. その映画を初めて見たときは全然印象に残らなかった

say

(他) 3【say wh 節/(that)節】…か[…ということ]がわかる, …を言う(□通例否定的文脈で)

I *can't say who the winner would be*. だれが勝つかはわからない

(自) 2《くだけて・丁寧に》わかる, 判断できる(□通例否定的文脈で)

I'm not an expert. I *can't [couldn't, wouldn't] say*. 専門家ではありませんし, 何とも言えません

¹³ 上掲の get one's head around [round] A と同種の成句だと言える。

see A in B

(熟) 【否定文で】B〈人・物〉の中にA〈特質〉を認めない

Frankly, I can't understand what you see in him. 正直に言うけど、彼のどこが正しいのかわからない

take A in [in A]

(熟) (1)A〈話・本などの内容〉を理解している、飲み込む(☐通例否定的文脈で)

You don't believe me. You can't take anything in. 私のことを信じていませんね、何もわかっていらっしやらない

4 考える, 思う (14 語彙項目)

ここには、「考える, 思う」という意味で括ることのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。「考える」の類縁的意味としては、「考慮する, 考察する」, 「(考えなどが) 浮かぶ」, 「(問題などが) 考察の対象となる」などがある。また、「思う」の類縁的意味としては、「思いつく」, 「想像する」, 「夢想する」などがある。

bargain for [on] A

(熟) (1)【通例否定文, または比較構文で】A〈事〉を前もって考慮に入れる, 予期する [否定文の用例なし]

believe A of B

(熟) B〈人〉がA〈ひどい行為〉をするような人だと思う(☐通例否定文で) [否定文の用例なし]

conceive

(他) 2 ((かたく) 【通例否定文・疑問文で】…を理解する, 【conceive that

節/wh 節] …だと[…かを]想像する

I can't conceive that anyone would dare to try to conquer the dangerous summit.
その危険な峰にあえて登頂しようとする人がいるとは想像がつかない

(自) 2 (《かたく》) 【通例否定文で】《事を/…することを/…かを》想像する、
考慮する 《of/doing/of wh 節》

I can't conceive of spending 100,000 yen for shoes. 靴に 10 万円使うなど考えられない

dream

(他) 3 【しばしば否定文で】…を夢想する, 【~ that 節】…ということを想像する

I never dreamed that Tom would be selected. トムが選ばれることになるとは夢にも思わなかった

(自) 3 【しばしば否定文で】《…について》想像する, 考えつく 《of》

I wouldn't [would never] dream of insulting you. 君を侮辱しようなどは夢にも思わない

enter

(他) 9 (《話》) 〈考えなどが〉 〈人の心・頭〉に浮かぶ, 湧き出す (☐しばしば否定文で)

It never entered my head [mind] that I might marry Yuji. 私がユウジと結婚するなんて思ってもみなかった

enter into A

(熟) (4) 〈特定の問題などが〉 A 〈議論・考察など〉に入ってくる, A の要因 [対象]となる (☐しばしば否定文で)

Money does not enter into our discussion. 金の問題は議論に含めない

fancy (1)

(他) 5《英》〈人・チームなど〉が勝つと思う, 〈事など〉が成功すると思う (☐しばしば否定文で)

I don't fancy your chances. あなたに勝ち目はない

go into A

(熟) (5) A〈事〉をくわしく説明する[論ずる], A〈詳細〉に立ち入る¹⁴ (☐通例否定文で) [否定文の用例なし]

enter A's head

(熟) 【通例否定文で】〈ある考えなどが〉A〈人〉の頭に浮かぶ [否定文の用例なし]

cross [enter, come into] one's mind

(熟) 〈考え・可能性などが〉(一瞬)脳裏をよぎる (☐しばしば否定文で用いられる)

It never crossed my mind that he was the criminal. 彼が犯人であるとは思ってもよらなかった

reckon with A

(熟) (1) 【通例否定文で】A〈人・物・事〉を考慮に入れる [否定文の用例なし]

lose sleep

(熟) 《…について》くよくよ考える «*about, over*» (☐しばしば否定文で)

Don't lose sleep over your mistake. 失敗をいつまでもくよくよ考えるな

¹⁴ 「くわしく説明する[論ずる], 詳細に立ち入る」→「考察する」と解することができるので、この項に入れておく

think

(他) 6 【～to do; 否定文・疑問文で】…することを思いつく、忘れずに…する
 I *didn't think to check* it was locked. それにかぎがかかっているかどうか調べるのを忘れた

think of [about] doing

(熟) (2) 【しばしば否定文で】…することを想像する
 We *couldn't think of being rude* to Lizzie. リジーに失礼な態度をとるなど思いもよらなかった

5 気にする, 欲する (7 語彙項目)

ここには、「気にする, 欲する」という意味で括弧することのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。「気にする」の類縁の意味としては、「心配する」、「関心がある」、「嫌だと思ふ」などがある。また、「欲する」の類縁の意味としては「望む」、「好む」などがある。

care

(自) 1 【しばしば否定文・疑問文で】(重要性を感じて)《物・事に》関心がある, 気になる «about»

I *don't care about money* [my dress]. 僕はお金[服装]など気にしない

2 【しばしば否定文・疑問文で】(健康・幸福などを願って)《人のことを》心配する, 気にかける «about, for»

You *don't care about me* any more. もう私のことなんてどうでもいいのね

(他) 1 【通例否定文・疑問文で】【care wh 節/if 節】…か(どうか)気にする, 興味がある

No one *cared what* was happening to him. 彼に何が起きているか気にする者はいなかった

2 《かたい話・丁寧な》【would care to do】…することを希望する (□疑問文・

否定文・条件節で) [否定文の用例なし]

3 《やや古》【通例否定文・比較節で】《…するのを》好む, 欲する «to do»
He didn't care to dance. 彼は踊りたがらなかった

care for A

(熟) (3)《話・かたく》【通例 would を伴う疑問文・否定文で】A 〈物・事〉が
 欲しい, A を望む [否定文の用例なし]

(5)《かたく》【通例否定文・疑問文で】A 〈物・事・人〉が好きだ
He didn't care for carrots. 彼はニンジンが好きでなかった

fancy (2)

(他) 1 《主に英・くだけて》〈物・事〉がほしい, 【fancy doing】…したい (☐
 しばしば否定・疑問文で)

I don't fancy staying here any more. これ以上ここにはいたくない

give a fuck

(熟) 《話卑》【通例否定文・疑問文で】気に掛ける, 頓着する

I don't give a (flying) fuck. おれは気にしない

mind

(他) 1 《主に話》【通例否定文・疑問文で】

a 〈人が〉〈人・物・事〉を気にする, …をいやがる

I don't mind the heat so much, but I do mind the smell. 暑さはそんなに気にならないが, においが気になる (☐強調の do と共に対比的に用いられる場合は肯定文も可)

(自) 1 《主に話》【通例否定文・疑問文で】〈人が〉いやだと思ふ, 気にする

The floor was a little wet, but the dancer didn't seem to mind. 床が少し濡れていたが, そのダンサーは気にしていないようだった

regard

(他) 4 《かたく》【通例否定文・疑問文で】〈人の意見など〉に注意を払う、
…を気に留める [否定文の用例なし]

want

(他) 2 c 【want A doing】〈人が〉A 〈人・物など〉に…して欲しい (☐通例
否定文で)

I don't want anyone doing it. だれにもそれをやって欲しくない

6 避ける, ためらう (7 語彙項目)

ここには、「避ける, ためらう」という意味で括ることのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。「避ける」の類縁的意味としては、「逃げる」, 「(苦労などを) 惜しむ」などがある。また、「ためらう」の類縁的意味としては「たじろぐ」などがある。

flinch

(自) 2 【通例否定文で】《いやなことから》逃げる, 尻込みする «from» [否定文の用例なし]

look back

(熟) (3) 《主に英・くだけで》【通例否定語を伴って】(ある事の後に) うまくいく, たじろがない

After that, she never looked back. その後彼女は順調にいった

scruple

(自) 【通例否定文で】《…するのを/…するのに》ためらう, ちゅうちよする «to do/about doing»

He doesn't scruple to tell a lie. 彼は平気でうそをつく

shrink from A [doing]

(熟) 【通例否定文で】A〈困難な課題・義務・危険など〉[…すること]を嫌がる, 避ける

I won't shrink from my responsibility. 私は責任逃れなどしない

spare

(他) 4 【通例否定文で】〈出費・努力・苦労など〉を惜しまない, いとわないう
spare no expense to get results 結果を得るために出費をいとわないう

spare oneself

(熟) 【通例否定文で】労を惜しまない [否定文の用例なし]

think twice

(熟) (2) 【否定文で】《…することに》ためらいを感じる, 躊躇する «about doing» [否定文の用例なし]

7 許す (7 語彙項目)

ここには, 「許す」という意味で括弧することのできる語義を持つ動詞表現がまとめてある。類縁の意味としては, 「承認[黙認]する」, 「余地・余裕がある」などがある。また, 「許す」の否定として, 「～するな, ～させるな」という「禁止」を表す表現もここに含める。

allow of A

(熟) 《かたく》【通例否定文で】〈物・事が〉A〈解釈・行為など〉を許容する, Aの余地を残す

The article allows of no other interpretation. この条項はほかの解釈は認められない

countenance

(他) 《かたく》〈人が〉〈物事〉に賛成する, …を承認[黙認]する (口しばしば否定文で)

He *couldn't countenance* anything illegitimate. 彼は違法な事は何も許せなかった

go

(自) 4 【go doing】c 《話》【否定命令文で】…するな

Now, *don't go spending* your money all at once. こら, お金を全部いっぺんに使っちゃだめだ

let

(他) 2 【let A do】b 【否定命令文で】A 〈事〉に…させるようにするな

Don't let it bother you. そんなことで悩まないで

permit

(自) 《かたく》〈物事が〉許す, 《…の》余地がある «of» (口主に否定文で用いられる)

Her health will *not permit of* her staying here. 健康上の問題で彼女はここに滞在することはできないだろう

stretch

(自) 7 【否定文で】〈財源・金銭の蓄えが〉《事を行うのに》余裕がある «to»

The budget *won't stretch to* the project. この予算ではその事業を行うことができない

wear

(他) 4 《英・くだけで》【通例否定文・疑問文で】〈事〉を認める, 許す

I *don't wear* it. それは認められない

ここから先は、語彙項目が6つ以下の意味範疇である。¹⁵ 通例否定文という文形式上の特性と意味との関連がさほど感じられないものなので、本稿では詳しく取り上げない。意味範疇と語彙項目の数と、当該の動詞表現だけを挙げておく。

- 8 ~できる (4 語彙項目) : afford, feel up to A, get it up, hack
- 9 話す, 言う (4 語彙項目) : let on, to speak of, swear (to ~), get a word in edgeways [edgewise]
- 10 わざわざする, あえてする (4 語彙項目) : bother, dare, presume, pretend
- 11 重要である, 影響を及ぼす (3 語彙項目) : matter (to A), signify, cut ice (with ~)
- 12 動く (3 語彙項目) : stir (from ~), do a hand's turn, lift a hand
- 13 扱う (3 語彙項目) : do A with B, mess with A, trifle (with ~)
- 14 実現する (2 語彙項目) : materialize, pan out
- 15 不足している (2 語彙項目) : lack (for ~), want (for ~)
- 16 ~させる (2 語彙項目) : possess (A to do), put A to B
- 17 役立つ (2 語彙項目) : avail, be not much [no, not any, never any] good
- 18 交替する, 変える (2 語彙項目) : change one's spots, change [swap] places (with ~)
- 19 おとしめる, 傷つける (2 語彙項目) : lower oneself (by doing), lay a finger on A
- 20 見る (2 語彙項目) : set [lay, clap] eyes on A, take one's eyes off (A)
- 21 食べる (2 語彙項目) : taste, touch
- 22 頼る (2 語彙項目) : get on, trust
- 23 反論する (2 語彙項目) : argue with A, quarrel (with ~)
- 24 やる気にする, やる気になる (2 語彙項目) : bring A to do, find it in one's heart [oneself] to do

¹⁵ 実際には、語彙項目6つと5つの意味範疇はないので、4つ以下のものを挙げることになる。

- 25 思い出す (2 語彙項目) : place, put a name to A
- 26 信じる, 信じられる (2 語彙項目) : credit, wash (with ~)
- 27 驚く, 驚かす (2 語彙項目) : blink at A, set the world on fire
- 28 ~になる (1 語彙項目) : amount (to A)
- 29 使われている (1 語彙項目) : be slept in [on]
- 30 解決する (1 語彙項目) : hear the last of A
- 31 ぬぐい去る (1 語彙項目) : live A down [live down A]
- 32 関わる (1 語彙項目) : soil one's hands
- 33 訪れる (1 語彙項目) : set foot in [on] A
- 34 間違える (1 語彙項目) : put [set] a foot wrong
- 35 押しつける (1 語彙項目) : wish A on B
- 36 手にする, 手をつける (1 語彙項目) : touch
- 37 証明する (1 語彙項目) : make A stick
- 38 損をする (1 語彙項目) : lose (by ~)
- 39 寝つく (1 語彙項目) : get to sleep
- 40 やめる (1 語彙項目) : let up
- 41 口を通る (1 語彙項目) : pass one's lips
- 42 屈する (1 語彙項目) : bow down to A
- 43 非難する (1 語彙項目) : fault
- 44 安心する (1 語彙項目) : rest

4. おわりに

本稿のテーマは、通例否定文で使われるとされる動詞および動詞的表現の意味は、いくつかの範疇にまとめられるくらいの傾向性を示すものなのかどうかの検証であった。全 155 語彙項目が、すべて互いにまったく異なる意味を示していたり、せいぜい 3~5 つ程度のメンバーから成る意味範疇にしか括ることができなかつたりすれば、このような動詞表現には、とくに意味傾向は認められないということになるであろう。しかし、今回の分類によれば、

もっとも多くのメンバーから成る「一致する、匹敵する」という意味範疇には、22の語彙項目が含まれる。全体の約14%である。¹⁶ 以下、「我慢する、耐える」が17語彙項目で、全体の約11%、「理解する、気づく」が15語彙項目で、全体の約9.7%、「考える、思う」が14語彙項目で、全体の約9%、そして、「気にする、欲する」、「避ける、ためらう」、「許す」が共に7語彙項目で、それぞれ全体の約4.5%である。

むしろ、「一致する」という意味の動詞表現でさえあれば、即通例否定文で使われるであろうと予測できるわけではない。たとえば、correspond という動詞には、「通例否定文で」などの用法指示はない。また、agree には「否定文で」の指示があるけれども、それは「一致する」に当たるすべての語義についてのもではなく、agree with A で「〈食物が〉A〈人〉の胃に悪い」という個別的な語義にだけ適用されるものである。それでもなお、通例否定文で使われるとされる動詞表現の意味には、上で見たような意味範疇に分類される傾向があるとは言えるであろう。

では、なぜそのような意味傾向が見られるのであろうか。それは、やや大げさに言えば、そもそも言語とは何かという問題にまでさかのぼる。ここでは詳しく論じる余裕はないが、一方で、言語は、それ自体の原理で成り立つ自律的な閉じたシステムであると考えられる立場がある。生成文法などは、基本的にこの立場である。また、他方で、言語は、言語以外の諸認知能力と有機的に関連しており、言語構造の基盤には人間の日常の経験があると考えられる立場がある。認知言語学は、この立場である。¹⁷ 筆者は、後者の立場を取るものであるが、その考え方からすれば、人間の日常の生活において、上で見た多くの語彙項目を含んでいるような意味範疇は、とかく否定的に表現される

¹⁶ 仮に、この意味範疇に入れるにはやや無理があると思われるような例を除いたとしても、最低でも17くらいの項目は認めることができ、単なる偶然では説明できないだけの比率になる。

¹⁷ たとえば、認知言語学の第一人者であるラネッカーは、言語表現を作り出すのはいわゆる「文法」それ自体ではなく、「あらゆる心理上および文脈上の資源を利用する言語使用者」であると述べている。Cf. Ronald W. Langacker, *Grammar and Conceptualization* (Berlin: Mouton de Gruyter, 1999), p. 107.

機会が多いということである。もちろん、ものごとが「一致する」ことも、人が「我慢する」こともあるわけであるが、少なくとも同程度か、あるいはそれ以上に、とかくものごとは「一致せず」、人は「我慢できない」ことがあるということである。そして、後者のような場合が実際の言語運用で表現される経験が積み重なって、「一致する」、「我慢する」という意味の動詞表現のうちのいくつかの、「通例否定文で」という用法制限の基盤を成しているということである。¹⁸ すべての意味範疇についてこのような因果関係を安易に推定することは慎まなければならないが、本稿で見たことは、人間の経験=意味と言語構造との有機的な関係を示す一つの証左となるであろう。

¹⁸ 日本語でも、たとえば、否定文「イチローとお前では、比べものにならない」は自然であるが、肯定文「イチローとお前は、比べものになる」は変である（疑問文「イチローとお前が、比べものになると思うか？」ならよい）。「比べものになる」という日本語表現が通例否定文・疑問文で使われるのも、この表現自体が本来的にこのような用法制限を内包しているからではなく、とかく比較の対象にならないことを述べる機会が多いという日常的経験がその基盤にあるからだと言えるだろう。